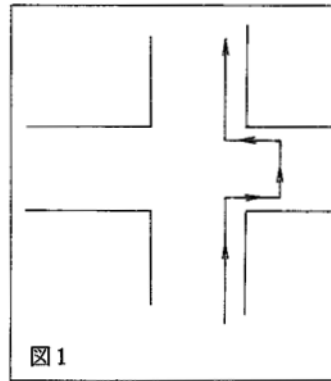


歩行訓練セミナー（４）

S O C

日本ライトハウス
芝田裕一

一般に、病院や役所等の建物内を伝い歩きにより歩行する際、廊下の十字路は図1のように一旦入りこみ、方向をとって（直角）から横断するという方法がよくとられる。これは、十字路で方向を失わないよう進行方向を維持しながら横断する方法である。屋外の道路横断の際にもこの方法は有効である。いちいち入りこまないでストレートに渡る、道路横断とは区別する意味で、SOC（Squaring Off Crossing）と呼んでいる。つまり、直角に方向をとって（Squaring Off）、横断する（Crossing）わけである。



このSOCを可能にするためには次の4つの能力が必要である。①「曲りこんだ」という筋肉運動的な知覚、②方向のとり方（直角）の能力、③横断後、元のコースへ戻るといった空間的な概念、④「元のコースへ戻った」という筋肉運動的な知覚。この中で特に重要なポイントは、①と④の筋肉運動的な知覚である。館内歩行では手による伝い歩きのため、「曲りこんだ」ということを意識するのは比較的容易である。しかし、屋外における白杖による伝い歩きでは、直線の方角維持能力が確立されてからでないと、すみ切りやゆるくカーブしている歩道の縁石に沿って、曲っても、曲ったことを筋肉運動的に知覚するのはむづかしい。ただ、逆に、空間概念的、筋肉運動的に歩行能力が低い者の場合でも、その生活地域で行なうAタイプの歩行訓練であれば、横断し始め、あるいは必要であれば、し終わりの地点にランドマークをつくることによりSOCは可能である。しかし、当然のことながら、Squaring Offの能力は要求される。

このSOCとストレートの横断とどちらがより困難かは、そのケース、その環境により、異なるため一概に断定はできない。ただ、どのようなタイプのケースであってもこのような横断方法が可能であることを指導し、そのケースが、その状況に応じて必要な横断方法が選択できるように訓練しておくことが重要である。